

【別紙1】

小笠原村立小笠原中学校令和6年度授業改善推進プラン

小笠原村立小笠原中学校
校長 椎橋 秀行

(1) 令和5年度の取り組み状況に関する総括

		[喫緊の課題] (全国平均以下)				[課題] (全国平均+0.05以下)								
	R6正答率	全国平均		R6正答率	全国平均	R5正答率	全国平均		R6正答率	全国平均	R5正答率	全国平均	R4正答率	全国平均
1年国語	0.67	0.61	2年国語	0.71	0.65	0.65	0.59	3年国語	0.64	0.68	0.73	0.64	0.64	0.57
1年社会	0.53	0.52	2年社会	0.55	0.50	0.60	0.53	3年社会	0.56	0.53	0.63	0.51	0.56	0.53
1年数学	0.71	0.64	2年数学	0.55	0.55	0.74	0.66	3年数学	0.42	0.51	0.50	0.53	0.77	0.69
1年理科	0.68	0.67	2年理科	0.60	0.56	0.69	0.62	3年理科	0.50	0.51	0.54	0.55	0.65	0.62
1年英語	0.76	0.77	2年英語	0.43	0.53	0.86	0.83	3年英語	0.48	0.51	0.50	0.46	0.86	0.80

村学力調査の正答率の全国平均との比較の経年変化推移から、全体的に、残念ながら学年が上がるにつれて横ばいや下降する傾向が見られる。学年別では3年生が、教科別では英語が、喫緊の課題である。

英語のカテゴリー別正答率%		1年平均正答率%		2年平均正答率%		3年平均正答率%	
全国平均以下		校内	全国	校内	全国	校内	全国
領域	聞くこと	79.9	74.0	59.1	66.3	60.2	53.3
	読むこと	81.8	83.3	47.7	58.9	50.8	59.5
	書くこと	68.8	75.3	23.2	31.7	32.2	34.9
観点	知識・技能	77.8	76.6	50.5	59.9	58.5	64.1
	思考・判断・表現	74.0	77.3	34.8	44.0	35.0	33.8
	主体的に学習に取り組む態度	68.9	85.1	24.0	35.0	22.6	20.0

喫緊の課題である英語の正答率%を全国平均とカテゴリー別に比較してみると、学年により差があるものの、領域に関しては「読むこと」「書くこと」、また、2学年の「思考・判断・表現」が重要課題だと分析できる。

3年生のカテゴリー別正答率%		国語・平均正答率%		社会・平均正答率%		数学・平均正答率%		理科・平均正答率%	
(共通項目) 全国平均以下		校内	全国	校内	全国	校内	全国	校内	全国
基礎 ・ 活用	教科全体	64.2	67.9	55.8	53.0	42.8	50.8	49.8	50.5
	基礎	69.7	69.8	58.6	57.2	44.4	53.6	50.2	53.4
	活用	53.8	64.3	49.1	43.1	38.2	42.8	48.8	44.7
観点	知識・技能	66.7	66.7	55.3	53.8	46.4	54.9	52.9	54.8
	思考・判断・表現	60.9	68.0	56.4	52.0	33.9	40.8	45.5	44.6
	主体的に学習に取り組む態度	46.3	61.5	49.1	43.1	39.8	42.8	43.2	42.1

学年別にみて課題である3年生について、教科別正答率%を共通項目のカテゴリーで整理すると以上のようなになる。

5年度「指導と評価の一体化」の視点に立ち、授業改善に取り組んできたが、正答率向上には、つながらなかった。令和6年度、教科や区分による成果の違いを分析し、生徒たちにどのような力が必要なのかを視点に入れた授業改善にさらに取り組む。

(2) 授業改善のための取組について

①課題の要因

本校では、確かな学力の向上として、基礎的・基本的な「知識・技能」の習得を図ってきた。今後、事実的な知識・技能の習得とともに、知識・技能の概念的な理解を深める。そのためにも、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行い、生徒が苦手とする「思考・判断・表現」する場面を効果的に設計した上での指導・評価することが求められる。また、「指導と評価の一体化」の視点から、各学年の定期考査の分析やふりかえりなどによる、特性や学習状況の把握がより一層必要である。

②学校全体で取り組む事項

小笠原教育委員会教育目標実現のための授業改善に関する取り組みの重点である、「わかる」から「できる」を体感する授業を確実に実施するために、今年度も、「指導と評価の一体化」をふまえた生徒の実情に応じた授業改善に取り組む。現在作成中の、「内容のまとめ」に準じた指導計画や評価基準においても、「評価の観点」との関係を確認し、観定のポイントとともに、内容のまとめごとの評価基準をふまえた授業を計画する。

さらに、今年度行う、小学校へのティームティーチングを活用し、義務教育9年間の学びの系統性の認識を深め、小中一貫教育充実のための方策として、小・中学校の内容の枠組みと対象を確認し、それをふまえた授業改善推進プランを作成する。